

ゆとりある教育を求め 全国の教育条件を 調べる会 ニュース

2016.2.29発行

NO.43

冬研の報告

春研のお知らせ 他

調べる会・冬研 in さいたま

30人の参加、盛会でした！

1月30日31日、埼玉大学大宮サテライト教室での研究会は、埼玉県臨時教職員制度を良くする会の方々、埼玉大学の学生さん、福島・長野の教職員組合役員の方、中にはフェイスブックでこの企画を知ったというフリージャーナリストの方等も参加されて、調べる会研究会では最高の参加者数となりました。

参加者の中に、本会が出版した「本当の30人学級は実現したのか？」を読んでいるとおっしゃった方が複数おられたのには、びっくりするやら嬉しいやら。

「最近暗い話題ばかりですが、久しぶりに希望を見出せた2日間でした。」という感想を寄せてくださる方もあって、充実した研究会となりました。

こんなに多くの方に参加して頂いたのも、埼玉大学の高橋先生のおかげです。本当にありがとうございました。（詳細は別紙）

春研、日程と会場（決定）

日時 2016年 5月3日～5月4日

会場 刈谷市総合文化センター

（*前号の予告とは違う会場になりました。）

申込み先着9名まで、民泊できます。

（食費のみ実費負担）

*詳細は別紙

10周年記念総会と夏の研究会

今年の総会は、長野で行います。

夏は、他にも色々な集会在り予定されていますので、出来るだけ重ならないように計画しました。

日程 8月17日～18日

会場 長野市生涯学習センター（予定）

長野市大字鶴賀問御所町 1271-3 TOiGO WEST 3F

多くの方の参加をお待ちしています！

パンフレットNO31作成

冬の研究会で使用した「2012・平成23年度 各県の教育条件総括一覧表」です。

小中別の数値も、新に集計しました。各県で一覧化できるように、記入用紙を付けています。コピーして、いくつかの県のものを作成してみてください。

次回のニュース発行の折には、LOOK・UP機能を付けたCDをお送りしたいと思っています。

情報公開請求中！

総額算定用の経験年数別給与額の決定に使用された資料などを、請求していただきます。入手法、会費納入済みの会員に発送します。

地方交付税の単価表CD

ご希望の方は、今福さんまでご連絡ください。

埼玉大学高橋哲先生のご尽力によって、素晴らしい会場で有意義な二日間を過ごすことができ、感謝しています。

今回は、新潟大学の世取山洋介先生のご講演「教育条件整備法制の具体像についての構想」を拝聴することができました。戦後から今日までの「教育条件整備法制の具体像」を、的確に示していただき、さらに今後の方向を論じられました。おかげで、自分の頭の中で拡散していた興味関心を収束させることができ、研究の方向が見えました。

また、高橋哲先生の「教員の「非正規雇用化」をめぐる政策・法状況」では、複雑化する「非正規雇用」の問題を論点整理する方法（何を調べて、何を得るか）を具体的に学ぶことができました。

橋口さんのワークショップでは、橋口さんが膨大な時間をかけて作られた「パンフレット」の中の「愛知県」の項を拾い出し、自分で数字を入れてみました。いつも思いますが、橋口さんのご努力には頭が下がります。

山崎さんの「文部科学省の予算案に関する見解（案）」もほとんど「唯一」といいレベルの高い「見解」です。現政権がどんどん教育条件を悪化させていることをグラフでわかりやすく示されたのち、今後のあるべき姿を論じていただきました。

加藤さんがお話しされた「臨時教職員の問題」を聞いて、非正規雇用の教職員の方々のご活躍があって、日々の教育が成り立っていることを痛感し、非正規雇用の教職員の雇用条件を保障しなければならないと思いました。

今福さんの「教職員数と統廃合について」での京都府の小中の統廃合の状況も大変興味深く、「小中一貫校」が検証もされずにどんどん作られている事実を知りました。「教職員実数調」「市町村の財政」から、「決算カードから抽出した人口推移」と考察は進み、「学校統廃合は地域発展へのマイナス要因だと考えます」のまとめの言葉がありました。わが市も最近人口減となり、他人事ではありません。「小中一貫校」「少人数学級政策の未実施」は、「人口減」と結びつくのではないかと考えます。

非正規雇用教職員の増大・小中一貫校（義務教育学校）設置・少人数政策の後退など、問題山積ですが、がんばっておられる多くの方々にお会いでき、大いに励みになりました。わたしの今後の課題は、昭和20・30年代の教育条件整備の状況をピンポイントで明らかにし、「国庫負担法」・「標準法」の制定の意義を探り、さらに、現況と照らし合わせることです。

最後に、報告の機会を与えていただき、皆様に感謝申し上げます。稚拙なわたしの報告について、多くの参会者から、間違い・研究の方向・資料の詳細な情報を示していただきました。

春には、愛知県刈谷市で「調べる会 in 刈谷」が行えるよう、会場選定をしました。ぜひ、みなさん、「調べる会 in 刈谷」においでください。5月3・4日に刈谷市総合文化センターでお会いしましょう。

事実を学び 誇りをもって

埼玉県臨時教職員制度を良くする会 加藤貞子

2日間大変お世話になりました。

私達埼玉のすすめる会に関係する人が11名も参加してくれてとても良かったと思います。

あらためて、今回の学習会を計画して下さった高橋先生に感謝したいと思います。

ありがとうございました。

11名の中には埼玉県や東京、千葉などで実際に臨時教職員として仕事をしているかたが私をいれて4名参加されました。(注:7名は、OB、市民の方です。)

当事者として、臨時教職員の制度を学ぶ機会はとても貴重だったと思います。

自らのおかれた状況を客観的に理解する機会は、とても貴重だったと思いました。

どうしても自分の力がないからと、自己責任の問題として臨時教職員の問題を、多くの臨時教職員は考えていると思うからです。

自分たちが日頃感じている矛盾を、なぜそうなっているのか事実をしっかり学ぶ機会は、人間として誇りをもって生きていくために必要と思いました。

愛知県の臨時の先生がつくった「臨時教員の人間宣言」という詩がありますが、ご存知ですか？

時間をとりじっくり学ぶ機会は必要でした。

埼玉の運動の前進になるいろいろな資料を用意し発表して下さった皆様方に感謝いたします。

またこのような機会を、ぜひ作っていただきたいと思いました。

ありがとうございました。

埼玉大学の学生さんより感想が届きました！

教育学部3年生

今回「調べる会」に参加して、子どもたちの教育について考えている人が、こんなにいるのか！と思いました。私の母もそうですが、自分の子どもの事にはすごく関心が高いですが、政策まで見るような人には出会ったことがありませんでした。保護者の立場から、ジャーナリストの立場から、教育学者の立場から、この会に来ていたことが驚きでした。

私も今まで、教育は内容についてばかりよくすれば良いと考えていました。しかし、教育の条件整備を考えるという視点を与えてくれたのが、大学であり、高橋ゼミでした。この視点を与えてもらったからこそ、現場に着いたら、生かすべきであると考えています。いま、自分ができることは、研究しかないと思うので、報告集に向けて頑張っていきたいです。

教育学部 3 年生

調べる会に参加してみて、今教育が抱えている問題に関して、研究者の方や実際に教育現場で働いている方など様々な方々から話を聞くことができよかったです。また、ワークショップでは、実際に自分で作業をしたり、周りの人と比較したりと、楽しく勉強させていただきました。

ありがとうございました。

教育学部 2 年生

『公教育の無償性を実現する』の著者である世取山先生を始めとする諸先生方のお話が聞け、とても貴重な機会でした。文部省が弱かった理由が研究されていないことにびっくりしましたが、質問の答えを聞き、社会的背景を考えながら予想をするのも必要だと、感じました。

宮澤孝子

調べる会に参加する楽しみの一つは、会の名前の通り、参加した一人一人が、それぞれの視点から考える『全国の教育条件』を共有できることだと思っています。今回は、奈良県や愛知県、京都府、埼玉県の実態を、様々な角度から垣間見ることができました。それぞれの地域の気候や地理的条件、各地域の産業、財政状況や行政の政策が複雑に絡み合い、その上に教育条件が整備されなければならないこと考えると、調べる会の存在は本当に重要だと毎回思います。今回の埼玉大会のワークショップでは、私は新潟県の数値の記入作業を行いました。そこから何かを読み取れるようになるには更に訓練が必要ですが、どんどん吸収していきたいと思います。懇親会の席で山崎先生がおっしゃっていたように、あるべき教育条件を整えられるように、私たちがこつこつと準備をしていくことが必要であると思いました。その準備が何かは個人によって違うかと思いますが、私の場合は今の自分の研究に励むことだと改めて感じました。最近暗い話題ばかりですが、久しぶりに希望を見出せた2日間でした。次回の研究会も楽しみにしております。

高橋先生からのメッセージ

埼玉大学教育学部 高橋哲

「調べる会」研究会の埼玉大会は、2014 年以來の 2 回目の開催となりますが、はじめての方御も含め、遠くから多くの方々にご参加いただきましたことを大変うれしく思っております。なかでも、埼玉県内で奮闘されている臨時採用教員の勤務条件改善を「すすめる会」とのタイアップができたことは、今後の非常勤教職員問題を運動的に前進させる契機であったと考えています。来年度文科省予算案への見解や、教育条件の実際の調べ方、さらには自治体内における学校統廃合の財政メカニズムなど、わたし自身、今回も多くを学ばせていただきました。「調べる会」の活動に改めて敬意を申し上げますとともに、今回の研究会を埼玉にて開催いただきましたことを心から感謝致します。

今回の冬研には、福島、新潟、埼玉、東京、長野、愛知、奈良、京都、宮崎より計30名の参加者がありました。今年で10周年目を迎えた調べる会の歴史の中で、研究会としては最多の参加者で、画期的な会となり、とても充実したいい研究会ができたとよろこんでいます。

参加者は10代から60代の学生、教員、学校事務職員、研究者、ジャーナリスト、教育委員会職員、主婦など多彩な顔触れでした。臨時教職員制度の改善をすすめる会の方たちや埼玉大の学生さん、Facebookがきっかけで参加して下さったフリージャーナリスト前屋毅さんなどともつながりができ、大変有意義だったと思います。

前屋さんは、さっそくヤフーニュースでとりあげて下さいました。「学校がブラック化している 非常勤の実態」<http://bylines.news.yahoo.co.jp/maeyatsuyoshi/20160202-00054032/>

これからの調べる会の活動に、大きな励ましを頂きました。参加して下さった皆様と、この研究会にご尽力いただいた埼玉大学の高橋先生、福島先生にお礼申し上げます。

今回の研究会にあたり、私は事務局長として「よびかけ」を行いました。それは、「教育条件整備法制案づくりにとりかかろう」というものです。

安倍政権下で行われている新自由主義教育政策は、これまで戦後日本が大切にしてきた公平平等な教育原則を本気で捨て去り、競争によるエリートと非エリートへの早期選別と教育課程の複線化などを矢継ぎ早に進めようとしています。政府は、その政策目的に合う施策には効率的に教育費を投下するが、そうでない施策には教育費を極力削減するという姿勢があからさまです。

その結果、少人数学級化政策は後退し、教職員定数は大幅削減され、地方財政悪化の中で地方裁量の少人数化や教職員増の施策も後退、学校統廃合がどんどん進められています。

本当の30人学級の実現と教職員定数の抜本的な増員により、ゆとりある教育を実現することをめざして調査研究を進めてきた「調べる会」ですが、こうした情勢の中で、私たちのとりくみもさらに一歩すすめる必要性を感じています。

今回の研究会に世取山先生をお呼びし、「教育条件整備法制の具体像についての構想」と題して講演していただいたのは、私たちが教育条件整備法制案をつくりあげるための研究に踏み出すきっかけとするためでした。

欧米のような市民革命を経ず近代化に踏み出した明治の時代、国会を開設し憲法に立脚した国づくりを求めて自由民権運動が各地でおこりました。彼らは自主的に学び、討議し、自らが理想とする憲法案を練り上げていました。すそ野の広い彼らのとりくみとその内容は、世代を超えてその後の日本の民主主義の発展に大きな影響を与えていくことになり、戦後に日本国憲法の成立というかたちで結実しました。

今まで大切にしてきたものがどんどん奪われ後退させられる中、なかなか先が見えない暗い情勢です。しかし今こそ、こうした先人の先見と奮闘に学び、教育を抜本的に改革する制度のあり方を考え、構想する必要があると思います。そのことが、個々の厳しい攻撃とたたかい、はねかえす勇気と力をも与えてくれると思います。

世取山先生の講演から学んだことは、まず「歴史の総括とそのうえに立った新しい展望の提示ぬきの対抗構想はありえない」ということです。戦後直後に存在した文部省の学校基準法案と学校財政法要綱案の内容を再評価し、その構想、挫折の過程を研究することが求められます。その点、宮澤さんや村田さんといった若い研究者の方の研究に特に期待したいと思います。（宮澤さんには、夏研で講演していただくことを予定しています）

もう一つは、「財産である義務教育費国庫負担制度を守り発展させる」ことの重要性です。調べる会がこれまで調査研究してきたことの意義とその成果が、改めて浮き彫りになった思いです。8月からのFacebookでの発信が大きな広がりを見せ、最多参加者で質の高い研究会を実施できたことで、私たちの調査研究の方向性が間違っていなかったことを実感しました。

厳しい攻撃の中で、30人学級実現など教育条件整備要求運動がかつての盛り上がりを見せていない今、少人数学級実現、教育の無償化推進、子どもの貧困解決、教職員の多忙化解消、私学助成増額、非正規教職員問題解決、特別支援学校設置基準確定といった課題の研究と運動を、教育条件整備法制の実現という共通の目標をもった研究と運動に合流させることができないだろうかとも考えています。とてもおこがましい考えかもしれませんが、強力な新自由主義教育政策を押し返すためには、そのことが必要だと思います。

多くの方々が、教育条件整備法制案づくりという方向性をもって、自由に自分の関心のあるところから、調査研究に参画してくださることを期待しています。みなさん、ともにがんばりましょう、子どもたちの未来のために。

今回は、春研（愛知県刈谷市）でお会いしましょう。

調べる会・春研 in 刈谷^{かりや} (愛知県)

日程 2016年5月3日(火) 憲法記念日 13:00～17:00
2016年5月4日(水) みどりの日 9:00～16:00

会場 刈谷市総合文化センター 4階 403 研修室

参加費 1000円 (学生は無料) 会員であるかないかに関わらず、どなたでも参加いただけます。

5月3日 13:00～17:00

ワークショップ 続「作ってみよう私の県の教育条件総括表」

- 2010年度と2011年度の比較 (東日本大震災の前と後)
- 公文書から自分の都道府県データを調べます。

5月4日 9:00～16:00

研究発表と交流(予定)

日本教育法学会 自由研究発表の原稿検討



*** 会員内外の研究報告者を募集します。**

報告用資料は、各自のご負担で20部程度をご準備ください。
報告希望の方は、下記までお知らせください。

参加等申込み先 ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会 事務局 山崎洋介

TEL 090-3162-7610 FAX 0774-73-2513E

メール shiraberukai@ae.auone-net.jp

調べる会・春研 in 刈谷^{かりや}（愛知県）

会場 刈谷市総合文化センター 4階 403 研修室

交通アクセス

J R 名古屋駅から J R 東海道線 豊橋行き快速・新快速（乗車 20 分） 刈谷駅下車

刈谷駅改札口を出たら、左に進んでください。
そのまま 2 階連絡通路を進み、右折。
刈谷市総合文化センター前で道路に降ります。
（改札口を出てから、徒歩 3 分で到着。）

中部国際空港から 刈谷方面行きバス（毎時 40 分発）乗車 50 分。
刈谷駅前下車 すぐ向かいに会場があります。

* 会場についての詳細は、「刈谷市総合文化センター」で検索してください。

宿 泊

宿泊は、各自で予約してください。刈谷駅南口周辺ホテルが便利です。満室の時は三河安城駅（新幹線こだま停車駅）前にホテルがいくつかあります。三河安城駅から刈谷駅までは JR 東海道線普通で 10 分です。

なお、5 月 3 日と 4 日については、個人宅ですが、**9 名様まで民泊** の用意があります。

申し込み先着順 です。食事代については、実費の負担をお願いします。

また、5 月 5 日には、西三河の戦争遺跡、三河一向一揆史跡、岩瀬文庫（日本で唯一の図書館の博物館）巡りなどを予定しております。この頃の愛知県は風も弱く、観光には絶好の季節です。ぜひ、愛知県の西三河にお越しください。

（詳細は、会場にてご説明します。費用は実費。）